

太 工

同窓会報

第 9 号

昭和54年10月23日

群馬県立太田工業

高等 学校

同 窓 会

同窓会員の皆様へ

同窓会会長 林 進 一

同窓会員の皆様は、御元気で、御活躍されている事と思えます。

第十五回の卒業生を、今年の四月に新会員として迎え、より充実と発展を期したいと思います。

話は変わりますが、先日読んだ本の中に、こんな事がありました。「おいこら」はていねい語であるというのです。

「オゴジヨこらこらテネゲエが落ちた、持たぬテネゲエなぜ落ちた」これは鹿児島県の正調小原節の文句です。オゴジヨは娘さんの意、こらこらはモンモンに当るていねいな呼びかけの言葉です。「もしも娘さん、手ぬぐいが落ちましたよ」と男が話のきつかけをつける呼びかけに「持つてもいない手ぬぐいが落ちるはずがない」とびしゃりとやりかえされる。この小原節のコラコラのていねい語が鹿児島(薩摩)で用いられている間

は天下の問題にならなかつた。それが、明治維新で薩摩と長州を中心とする藩閥政府の天下になつたので、コラコラも東京へ進出することになつて、問題をかもすに至ります。

明治四年新政府は、東京の警察を作ることになつた。これが日本警察制度の始まりです。西郷隆盛は、このうちの七割を鹿児島出身者でかためた。そのため、一般府県から採用された人も薩摩弁を習わないことには勤まらなくなつた。かくて薩摩弁一色になつて、人々接するには知らぬ娘に呼びかけるていねい語がよからうというので「オゴジヨこらこら」から「おいこら」という典型的な巡査言葉が生まれたのです。「おいこら」が「もしもし娘さん」という意味とは、私も知りませんでした。最後に、同窓会発展のために、

会員各位の一層の御協力と御援助をお願い申し上げます。

新任のごあいさつ

校長 森村 宏

同窓会会員の皆様には母校発展のために日頃より格別のご尽力をいただき深く感謝を申し上げます。このたび本校の校長に就任しました森村です。よろしくお願いいたします。嶋岡校長先生の創立された立派な校風をもつ県立太田工業高校に着任できたことを心から喜んでおります。

嶋岡先生には、この春の叙勲におきまして勲四等瑞宝章受章の栄に浴され、去る七月七日、太田市民会館において叙勲祝賀会を開催いたしました。嶋岡先生の伊勢崎工業学校時代の教え子である私が本校の第五代目の校長として恩師の祝賀会の主催者としてお祝いのできましたことに不思議なめぐり合わせを感じております。嶋岡先生の残された偉大な業績と先輩の皆さんが築いてくれた立派な伝統の上にによりよい校風を積みあげていきたいとお願いいたしております。

今後ともよろしくご支援ご鞭撻くださるようお願いいたします。

かつて私は県教育委員会事務局の指導主事をしたことがありましたが、昭和四十八年のオイルショックの時に進路指導を担当しておりまして、高校生の就職が心配で県下の全高等学校から詳しい就職状況の報告を求めたことがありました。その報告書を一覧しましたところ、普通高校からの報告書には工業高校の生徒ならおそらく見向きもしないであろうと思われる就職先がそれも僅かに記載されていただけだったのには驚かされました。勿論、職業に貴賤はありませんから、どのような仕事でも私は決してそれをさげすむつもりはありませんが、この時ほど専門の知識、技能を有する工業高校の生徒とのちがいを痛切に感じたことはありませんでした。

どうぞ、先輩の皆さんにおかれましては専門の知識や技能のうえに更にいつそその研鑽を積まれ、それぞれの職場で大いに活躍くださるようお願いしてやみません。

三年程前になりますが、文部省の教員海外派遣団に加わり欧米七か国を視察する機会に恵まれましたが、わが国の工業製品の優秀さに目を見張るとともに、工業国日本力の強さを痛感いたしました。今後、わが国が工業国として力

強く生きてゆくためには、日本人の頭脳や技術によつて国際競争力があると同時に、世界から歓迎される産業や商品を開発することが強く期待されておりますが、その基礎にあるものは科学や技術であ

初代校長嶋岡平蔵先生の叙勲によせて

元校長 青 山 良 平

先生は新潟県のご出身で、家業は代々長岡藩のお抱の御用商人でお父さんの代まで呉服商を業んでいたと聞いて居ります。

長岡高等工業学校機械工学科を卒業され、高田商工学校に奉職、機械に関する学科の他、数学物理英語なども担任され、まさに若い万能教師であつたようです。

昭和十六年伊勢崎工業高校に転任、創立間もない機械科の科長として施設設備の充実に盡力され、細心の国群馬に始めて機械技術者養成を目的とする、学園づくりに成功されました。

技術者は理論家ではない、何ができるかということだ、これが先生の持論でした。

その才覚が認められ教頭職を経ることなく校長に抜擢され、新設の群馬県立太田工業高等学校長に

ることはいうまでもありません。先輩の皆様のご多幸といつそうのご活躍をお祈りするとともに、次代のわが国の工業界を担う若者の育成に邁進する所存です。

任命されたのであります。

太田工業高等学校は戦後初めて建設された県立高等学校であり、誘致会議に火花を散し、そのため政治的句のする状況の中の地元負担金の割当、何回会議を開いても結論が出ず苦勞されたこと聞いています。

幾多の難問を辛抱強く解決され当時の金額で一億数千万円の資金調達に成功、北関東に類を見ない学園をつくりあげました。

先生のご努力にはただただ頭が下がるのみです。

「人情校長選手にわびる。」これは太田工業が高校野球初出場の折りの朝日新聞の記事です。

スタンドで応援していた校長が完敗した選手達によくやった、校庭の整地が進まず、満足の練習が出来ずすまなかつたと頭を下げた

校長。こんな豊かな人間味あふれる姿に目を止めた新聞記者、感動の一瞬を書いた一文だったろう。先生のやさしい激励が翌年の秋の大会に実を結び、決勝戦で優勝候補の前工と対戦惜敗はしたが準優勝の成績を収めた。

厳しさと優しさを兼備えた真の教育者の姿を伺い知ることができるのであります。

退職後は群馬自動車整備専門学校校長として、技術者の養成に盡心され現在に至るまで、実に五十有余年、半世紀以上に及ぶ技術教育一筋に歩いてきた。

先生の偉大な功績に対し勲四等瑞宝章が授与されたのであります。心からお祝い申し上げますと共に、先生の今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

「工業祭によせて」

実行委員長 高橋二千雄

九月の長雨もようやくあがり、澄んだ夜空に月が冴え、虫の音が心地よく耳もとをくすぐるこの頃は、同窓生の皆様にはそれぞれ分野で御活躍のことゝ思います。

さて母校は創立十八年を教え、地域社会にしっかりとその根をおろし、新たな伝統を築きつゝ明日

をめざして生徒、職員共ども頑張っています。技術革新華やかな時代に産声をあげた母校はその後の産業、経済、文化の急速な変化発展の中で紆余曲折を経ながら自ら共に認める工業高校として成長してきました。教育環境の整備、設備の充実、学力向上への努力、クラブ活動の活発化等にその一端がうかがわれます。しかしながら一方では物質文化の氾濫やマスコミの発達は多様な価値観を生みだし、その為にともすると原則や基本といったものがあいまいになりがちである。このことは学校教育ひいては社会生活全般に大きな問題を投げかけています。同時に、高い進学率や高学歴社会は必然的に学校教育の質的变化をもたらしています。このような流動的な社会情勢の中で学校教育は教育の普遍性を守りつゝ、尚現実に対処していかなければなりません。このよう

な難しい状況を克服するためには学校教育、家庭教育、社会教育の三つが有機的に結合されなければなりません。

ともあれ、若い高校生のエネルギーはその限りを知りません。高校生気質も年々変わっています。私にはとてもまねの出来ないエネルギッシュでフランクな生き方を彼

等は知っています。私は「高校時代は苦しみに耐えて、勉強したり、クラブ活動で心身を鍛え、その後自分の期待する人生が開けるのだ。」というように考えていたように思います。だから忍耐という面では現代の高校生よりはるかにまさっていたように思います。そのかわり高校時代は特に楽しいとは思いませんでした。しかし今の高校生は「高校時代をエンジョイする。」というように変ってきています。もつとも「社会に出たら苦労するから、高校時代は遊ぼう。」などと考えているとすれば、これは論外である。人の生き方、考え方は時代と共に変わるものだろう。

さて、今年の秋は第六回工業祭を迎えます。工業祭も時代と共に移り変わります。ハッターをきかせた「珍ガラ展」、「お手につないだフォークダンス」、そして「本職顔まけの喫茶店」、どうやら最近では縁日よろしく屋台が並ぶのが流行らしい。「見せる工業祭」から「楽しむ工業祭」へと様変わりする気配にある。それを一概に否定するものではないが少なくとも利根的であつたり、遊び半分であつてはならない。充実感をかみしめられる内容であつて欲しい

と思う。充実感には準備に要する努力に比例するものであろう。長い人生には幾多の苦しみや悲しみがあつてはならない。それを乗り越える気力や体力は理屈や観念では養えない。経験を通して養われることが多い。工業祭はその意味で格好の場である。貴重な経験は生徒一人一人が積極的に取り組むことによつて得られるものである。同窓生の皆さんが高校時代の貴重な経験を生かし充実した毎日を送つていられることは生徒にとつて良き模範となつていふこと、思ひます。夏休み前から少しづつ準備をしています。がなかなか計画どおりにいきません。しかしながら徐々にその熱気が感じられます。全校一致協力のもと必ず立派な工業祭になるものと確信しています。同窓生の皆様には何かとお忙しいことを飾つた母校を訪れ、旧交をあたため、併せて在校生への激励を戴ければ幸いです。

機械科長 高橋 欣弥

機械科卒業生の諸君お元気で活躍ですか、こゝしばらく低迷を つづけていた就職状況も今年度か

ら回復のようすが見えてきて喜んでいいます。また、近年とくに太田周辺に有力な企業の進出があり、また生徒父兄の考え方などから県外の希望が減少してしまいました。ぜひ後輩をという声も時折り聞かれています。もちろんその指導も心掛けておりますので時には学校へ出かけて状況など聞かせてください。

今年は、第六回工業祭が行われます。諸君達が卒業されてから大部分の人達と逢う機会もないのですが、ぜひこのような折りにお出掛けいただき旧交を暖めていただきたい。

本校の工業祭は、相変わらず三年に一回の順でくりかえされていきます。諸君達が在校中に経験したように前回の工業祭のようすは記録によるほか全く判らず大変苦労したのではないかと思います。

今回の工業祭は、「明日に向つて」というテーマで取りくむことになつていますが、今年の生徒達も先輩と同じように苦労しながら自分達の工業祭を創り上げてくれること、思ひますので、ぜひその成果を見てやつてください。

機械科の工業祭の内容はどちらかというと地味な面が多いと思ひ

ますが、工業の中心的存在を自負している機械科はそれなりに見る人達の心にとどまるもののあるものを目指して今回も頑張りたいと考えています。

なお、本校もあと2年で開校20周年を迎えますが、諸君達の残した足跡をつぎつぎと踏みながら本校は発展していくと思ひますのでご後援をお願いいたします。

機械科の先生方は、五十一年度以降人事の移動もなく、それぞれ元気に活躍しております。

そして、一年菊地丞示、二年齊藤芳国、三年伴場 茂の各先生が担任をしております。

では終りになりましたが、諸君のご健康でご活躍されることをお祈りしております。

電気科長 新井 磯男

本校電気科卒業生の皆さん各方面で御活躍の事と思ひます。

月日のたつのも早いもので第五回の卒業生を送り来年は開校以来二十周年を向える事になりました。この間、電気科では、日進月歩の科学技術に即応できるように技術の習得をめざして新しい設備を導入致しました。特に今年度行な

われる工業祭では次に上げる各種だし物を数多く実演する事になっております。

- 製図実習室 作品展示
- 工作実習室 旋盤作品展示
- 工事実習室 工事材料展示
- 計測実習室 各種基礎実験
- 機器実習室 回転花瓶
- 回転卵

電子実習室

- 電子実験 電気機器実験
- TVカメラ
- ゲーム
- 照明・超音波
- 定周波定電圧
- シーケンス

電力実習室

- 高電圧
- 模擬送電線実験
- コンピュータの原理及び各種ゲーム

科の目標としては将来電気技術者として社会に貢献できる人材を養成するよう努力しています。又希望と生きがいを感じる、高校生を送れるよう一年生では計算機技能検定三級の資格を、二年生全員に電気工事士免状(合格率、五十二年度、四三%、五十三年度、七〇%、五十四年度、学科のみ、九九%)、三年生で高圧電気工事士

及び電験三種の免許を取得できるよう指導しています。

電気科卒業生は昭和五十三年三月で、三七〇名を教え中堅技術者として各方面にわたり活躍しています。

現在電気科職員は五十四年四月三浦岳俊先生を伊工へお送りし、次のとおりです。

- 新井 穠男(科長)
- 鈴木 敏一(職業指導主事)
- 長 弘之
- 清水 国稔(昭48伊工より)
- 高橋二千雄(生徒指導主事)
- 田中 健司
- 鈴木 久市(昭54伊工より)
- 長谷川功二
- 吉田 久男
- 石川 忠男
- 長谷川 稔

雑言

工業化学科長 茂木正高

卒業生の皆さん元気ですか。石油危機の叫ばれる昨今、産業界での影響も大きく、それが原因で職場でもいろいろと大変な事と思います。省エネ時代に生きる考え方、それに対処する考え方には、どうしても化学的な思考が不可欠なもの

となつてきます。工業生産は限られた資源からより付加価値の高い物をつくり出していかなければなりません。こんな意味で化学分野は、ますます社会から要求されるものとなるでしょう。

皆さんは、その基礎をもつていられるのですから職場が化学の分野に関係しようが、しまいがますます化学的思考を磨かれて時代の要求に応えべく頑張つて欲しいと思います。

さて、学校の現況ですが、現在三年生の就職が内定しつゝあり、近いうちに全員が内定する予定です。来年四月、皆さんの職場に就職するわけですが、充分ご指導していただきますようお願い致します。

二年生は、十月二十一日より四泊五日の修学旅行ですので、準備に忙しいようです。恐らく学校生活を通じて一番楽しい思い出をつくつてくることでしょう。皆さんの思い出は如何がだったですか。

十一月三日・四日の二日間は工業祭ですので、これから忙しくなります。是非おいで下さい。

つぎに、今年度より入学選抜方法が変わつて単科別になりました。お蔭で競争率は三科の中で一番高く優秀な新入生を迎えることがで

き喜んでおります。

一期生が卒業して、はや十五年学校もますます充実し、立派な伝統を築づくべく職員一同頑張つております。現在の工業化学科の職員はつぎのとおりです。

- 栗野 昭 教務主任
- 下山博康 二年担任・学年主任
- 空井良英 整備係主任
- 小林治太郎 視聴覚係主任
- 小島正三 一年担任
- 宮西孝明 三年担任
- 赤間和彦 生活指導係
- 伊藤辰夫 同窓会係
- 増田芳之 新任(塚越先生の後任として本年度信州大学より)

(註) 塚越先生は、病氣療養のため退職されました。先生の病氣全快を心より祈ります。

工業祭

定時制

「今、この時、自分を創造しよう!!」定時制の工業祭のテーマである。このテーマは、三年生九名、四年生八名、職員五名が定時制としては最後の工業祭になる、今回の祭典に向けての姿勢である。まさに、「今、この時」、私達は私達を創造しなければならぬ。

一年半後に、定時制に終止符を打つ私達には、一日一日が、まことに貴重な時であり、その中で為すあらゆる体験が、静かに幕を閉じる太田工業高校定時制にとって、力強い出発の証となるよう私たちは全力を尽している。

「十七名で何ができるのだろうか？」という不安から「十七名、全員で、私達の工業祭にしよう!!」と決まったのは九月中旬になつてからである。「何ができる」から「何をやる」かへの移行は、私たちにとつて、一つの飛躍であつた。「できるか・できないか」の前に「するか・しないか」、そして、「しよう」という決意から、創造しよう!!

第三回目の全体集会で、方針が決まった。定時制の特色を生かそう!!工業祭に訪れてくれる人達との心の触れあえるものにしよう!!製作作品・展示物などは、時間をかけてベストのものにしよう!!そして、工業祭に向けての準備期間、製作過程の中で仲間とともに、自分を創造しよう!!と。

内容は大きく二つのパートに分けられた。文化的なもの製作に関するものと機械工作的なものに関するもの、文化的なパートは九名で、内容は写真・詩集・コンサー

ト・立体模型、そして「太田工業高校定時制十五年のあゆみ」である。機械工作のパートは八名で、運動用具製作展示、ゴーカート製作展示、ターボエンジンの模型製作展示である。その他、バザール、職場の製品展示が計画されている。九月末日までに計画表(製作の日程)が各パート、各グループから提出され、始まる、いや、すでに始まっている。真剣に考え、悩みそして行うところから生まれてくるもの。私達はつくり出している今、「時」はつねに新しい。そして、私たちはつねに新しくなる。

鐘の響きは、打ち方によつて、その響きが決まる。強く打つと、大きく響く。そして、蠟燭は自らを燃やすことで、輝き広げている。

在学中の思いで

興国化学(7期C) 成塚松治

その1. 工業祭
私達の工業祭は、45年の11月12、3日で第3回目の工業祭でした。その年は太工創立10年記念で盛大に開催されました。事もあろうにその年の工業祭実行

委員長になんと私を選ばれてしまいました。選ばれた以上一生懸命やろうと思いましたがなかなかうまくいきませんでした。

あれもやろうこれもやろうと当時の生徒会の役員達と夜遅くまで計画をねつたのですが、いざ実行の段階になるといろいろな問題にぶち当たり計画倒れに終わってしまいました。

そんな中でも計画したいくつかは実行する事ができました。特に前夜祭として行なわれた仮装行列は各クラス好きなテーマを選び、知恵をしぼり合ひすばらしいものになりました。口紅を塗り髪をロングにし女装する者、顔中にすみを塗りおどけて見せる者、等傑作が多く、ブラカードを先頭に市内をねり歩きまわりました。通りすがりの人々から拍手やらひやかしの声やら大盛況でした。

また私達の先輩で歌手になつた沖一郎さんを体育館に呼んで開いた沖一郎ショーも盛大なものでした。当時の生徒会副会長だった、寒沢君の名司会によつて館内に大爆笑が巻き起つたのを今でもはっきり覚えています。この時沖一郎先輩からいただいた色紙が今でも私の部屋の壁に飾つ

てあり、当時の事がなつかしく浮んできます。

その2. クラブ活動
私は在学中にスケート部に入っていました。私達の一年先輩に、インターハイに出場した選手がいまして我々も先輩に続けとばかり毎日練習に明暮れたものでした。現在の太工スケート部はインターハイ出場の常連校と聞いて後輩達のがんばりに感激しています。

当時は校舎の一番裏に空地がありまして、先輩達がここに目をつけ草をむしり土をならしてスケート部の専用グラウンドを作つたと聞いております。それ以後、毎年草むしりと土ならしを行ない、だんだんグラウンドらしくなつてきました。自分達が作つたグラウンドで練習するよろこびは格別のものでした。

またスケート部は金がかかるので春休みと夏休みには必ずアルバイトをしてかせいだものでした。水上練習は主に桐生のスケートセンターでした。終業後すぐに家に帰りオートバイに乗って桐生まで出かけて行つたものでした。練習が終つた後で食べたラーメンのうまかつた事がなつかしく思い出されます。

「太田工業高校」

日本コイル(十五期E)金原 浩

「太工」を卒業して、早半年が過ぎました。昭和五十一年四月、なぜか門をくぐってから、昭和五十四年三月一日、奇跡的にも、無事三年間で卒業。

会社にも、どうにか慣れ、良き上司、良き先輩にもめぐまれ、学生時代とはまた、一味違った楽しい日々です。

母校には、卒業してから、一回だけ、おじゃましています。それは昨る四月二十八、二十九日の二日間、無線部の合宿がありました。その時、後輩の様子を見に行き、吉田先生、田中先生他、なつかしい顔にお目にかかって帰ってきました。今年はいよいよ「工業祭」の年です。無線部始め、他のクラブも、とてもすばらしい文化祭にしてほしいと思っています。

三年前の工業祭では、私は一年生、先輩の言う事に、一つ一つ「ハイ、ハイ。」と。まではいかないが、忙がしく、あつちへ行き、こつちへ行きの連続だった事を覚えていますが、やはり楽しかった行事の一つだったと思います。

球技大会、陸上競技大会等、あ

まり成績の良くない我がクラスでしたが、授業がつぶれるというので、私にとつては、うれしい時でした。

いろいろと思ひ出は残ります。しかし今度は、学生の時の様な、あまい考えはできません。そうして一步一步、大人になっていきます。

工業祭を迎えて

興国化学(十四期C) 権田信男

強い陽射しも、ようやく弱くなり、最近涼しくなってきました。夜になると虫の音が聞かれ、秋がもうすぐそこまできているのが感じられます。あと1、2ヶ月もすると、今年の秋には工業祭があるということではどんな内容の工業祭になるか、楽しみに待っている今日このごろです。

私は3年前に工業祭を体験したばかりで、あれからもう3年が過ぎてしまつたのかと、月日がたつのは本当に早いものだと思つています。やはり母校の工業祭ともなると、どんな工業祭になるのか何か心配です。

自分達の工業祭を思い出しますと体育館でのコンサート有り、各クラブ、各科ごとの色々な催し物ありで、いつもの学校とは違い、とても解放的なところが多くとても楽しかったと思います。

内容の方も、どこからあんな知恵や工夫が飛び出してきたのか今さら感心するだけです。自分は実験室で実験を担当して、全部の催し物を見ることで、残念でした。でも体育館で食べたあのカツカレーだけは安いだけあつてあまりおいしくなかったことだけは、

今だに覚えています。体育館といえはあのコンサート、客の入りは少々すくなめで空席が目立ちちよつとさみしさがあつたが、そんな中で音楽担当の岡田先生がいつもの調子ではりきつていたのを思い出します。

またテレビの悪影響でしょうかパッチDEデートというのがどこかのクラスであつたそうです。

反響の方はいいますとかなりウケたようでした。見なかつたのが非常に残念です。実験室においては何かほとんどの人が一回りして次のコーナーへ行き、僕の熱のこもつた説明を聞いてくれた人は、ごく少数でした。

今考えてみるとほとんどの催し物を見なかつたわけで、自分で何をしていたのか非常に残念に思います。ダラダラと勝手なことを書いてしましました。今年の工業祭は、はたしてどんな内容のものになるのか、どんな内容で僕の目を楽しませてくれるのか期待しています。

学校だより

職員移動、昭和五十四年四月

徳江 浩先生(校長) 高崎工高校へ
三浦岳俊先生(電気) 伊勢崎工

若林宏宗先生(定社) 桐生高校へ
半田昭彦先生(定体) 大泉高校へ

森村 宏先生(校長) 県教育センターより
鈴木久市先生(電気) 伊勢崎工高校より

増田芳之先生(工化) 信州大修士
新卒

塩田直衛先生(英語) 六月十九日
小林玲子先生・旧姓仲山(事務)
四月十七日、両先生がご結婚されました。

編集後記

今回は特に第六回工業祭の案内を兼ね、工業祭前に発行しようと思つた備を進めてまいりました。ここに原稿をいただいた方々に深く感謝致します。(松原記)